



1 不審者対応訓練 (防犯教室)

① 椿泊小学校 (12/14)

② 富岡幼稚園 (11/19)



2 白ポストでの有害図書類回収

令和3年度 白ポストによる有害図書類の回収状況

月	漫画	小説	雑誌	写真集	ビデオ	CD	DVD	その他	合計
4月	1	3	2	0	0	0	130	0	136
5月	5	0	3	0	0	0	92	0	100
6月	0	6	9	1	0	0	59	0	75
7月	0	3	1	0	0	0	75	0	79
8月	0	0	3	0	0	0	86	0	89
9月	0	5	1	0	0	0	57	0	63
10月	0	4	0	0	0	0	60	0	64
11月	0	0	23	0	0	0	59	0	82
12月	8	0	36	0	0	0	123	0	167
1月	4	2	12	0	0	0	51	0	69
2月	40	0	50	1	0	0	45	0	136
合計	58	23	140	2	0	0	837	0	1060

白ポストを設置 (JR阿南駅・羽ノ浦駅・橋駅・ひまわり会館) しています。有害図書類への回収のご協力に感謝申し上げます。今年度は、DVDの回収が全体の80%近くになっています。昨年同様全体的には少ない数になっていますが、引き続き回収へのご協力をよろしくお願ひします。

3 シリーズ「ネット依存」④

前回、変化しているのは子どもたちだけでなく、子どもたちの周りの環境、「家庭」「学校」「生活」等についても変化してきていることを考えてみました。

今回は、「予防」を考えてみたいと思います。

(1) 家庭での予防

まず**基本は、家庭での予防**です。たとえば

- 「ネットの知識を身につける」
- 「子どもと話し合ってネット利用のルールを作る」
- 「ネットを使いすぎているか、オンラインゲームにはまっていないか等、子どものネットの利用実態を把握する」

…といったことを通して、子ども達がネットと正しくつきあえるよう導いてあげることが、まず基本となります。

しかし、スマホのような小型のネット端末がどんどん普及を続ける今となっては、家庭での予防だけではもはや状況に対応しきれなくなっていることも確かです。そうすると、**家庭で対応しきれない部分は、学校や塾などが対応していかなければなりません。**

(2) ルールづくりのヒント

家族みんなで話し合い、「わが家のルール」を作りましょう。

- ① 「いつまで」「どれくらい」等、子どもにもわかりやすいものにしましょう
- ② 作ったルールをちゃんと守れるか、お試し期間を設け、守れたらほめてあげましょう。
- ③ ルールを守れないときは、3日間保護者がゲーム機を預かるなどのルールを設け、ルールを守る習慣をつけさせましょう。ルールがあまり守れないときや、子どもの成長に応じてルールを見直すことにしましょう。

(3) チェックリストの活用

依存予防として**有効なのが、チェックリストの活用**です。こちらは高校生用のチェックリストですが、こういうもので確認をして、自分のネットの使い方が間違っていないかどうか、**自ら振り返らせる**のです。8個該当すると依存傾向があります。**そして依存しているならば、その度合いに応じた対応策を取る。**これで、家庭ではフォローしきれないところもかなりカバーできるはずです。

【携帯・スマホ依存チェック】(本人用)

- スマホを忘れると遅刻してでも自宅に取りに戻る
- ながらスマホをしている (食事、風呂など)
- 授業中でもスマホが気になる
- スマホが鳴っていないと鳴っていると錯覚する
- スマホ以外に楽しいことがない
- リアル友達より、ネット友達の方が多い
- ファミレスなどで友達といってもずっとスマホをいじっている
- 一日のほとんどをスマホをいじって過ごす
- スマホがないと不安になる
- スマホをいじっていて失敗したことがある (遅刻、人間関係など)

次に示すのは学校向けのチェックリストです。「もしかしたらあの子はネット依存じゃないか」ということをチェックするのに使ってもらいたいです。7個該当すると依存傾向があります。

【チェックリスト】(学校用)

- 禁止されているにもかかわらず学校にスマホを持ってくる
- 授業中、隠れてスマホをしている
- 友達や周囲のことに無関心で、休憩時間もネットをしている
- ネットやパソコンのことに極めて詳しい、こだわりが強い
- 遅刻や休み、授業中の居眠りが増えた
- 登校していても、黙って自宅に帰ることがある
- 性格が変化し大人に対してバカにしたような素振りがみられる
- PCの授業中、授業とは関係ないサイトを見ている
- 課題などにネット用語が多く見られる

授業中の居眠りは、普通の学校でも見られる問題です。保護者に訊いても「うちの子はちゃんと寝ています」と言うので、学校のカウンセラーの先生が子どもに「お母さんには言わないから」と言って聞き出すと、**実は親が寝た後でずっとネットをやっていた**、ということもよくあります。このように、家庭では気づかない場合もありますから、学校や塾でちょっと危険な兆候がある子に関しては、注意を促してあげるのがよいと思います。

(4) 自覚、早期発見が重要

『携帯・スマホ依存チェック』は、「**本人の自覚を促す**」という**ところに大きな意味があります**。ネット依存という病気は、**できるだけ早く発見すること**、また**本人に自覚させる**ことがとても重要ですから、チェックリストに限らず、依存に陥っている(依存しそうになっている)子ども達が少しでも早く自分の状態に気づくよう、回りの人達がそのきっかけを作ってあげましょう。

「自覚と早期発見」、まさにこれが決め手になるのです。これ以上ネット依存を増やさないためには、子ども達に事実を伝えて、自分の頭でいろいろと考えてもらうのが一番大切になってきます。

4 終わりに

今回が本年度の最終号になります。一年間お読みいただきありがとうございました。「**ネット依存**」だけでなく、「**成人年齢18歳**」や「**改正少年法**」等、気がかりなことがたくさんあります。今後、さらに提示しながら共に考えていければと思います。ありがとうございました。